

岡山県障害者（児）施設サービス自主評価結果（公表用）

施設名：デイセンターひるぜん

施設所在地：岡山県真庭市蒜山下福田1番地126

施設種別：生活介護

運営主体：社会福祉法人 慶光会

施設長名：丸山 朝美

評価月日：令和6年3月25日

評価項目（中項目）	評価結果
I-1 理念・基本方針	評価：B 法人の理念・基本方針は年度当初の全体職員会議での確認や、ホームページ・パンフレット等により周知を図っているが、具体的取り組みや根拠までを職員が理解できるような取り組みについては不十分である。今後、会議等を活用し、定期的な伝達確認と進捗についての振り返りを行う必要がある。
I-2 計画策定	評価：B 法人の理念・基本方針の実現に向けた目標・取り組みは、年度当初の職員会議にて全職員へ周知されている。その法人の理念・基本方針に基づいて事業所の事業計画を具体的に策定し、日々の支援に反映した形としているが、振り返りについては不十分であった。
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	評価：B 管理者の役割・責任については年度当初の会議で職員へ周知を行った。現場実践以外の業務改善や検討については、管理者自身のリーダーシップの発揮が十分ではない部分もあった。
II-1 経営状況の把握	評価：B 法人の経営状況については法人本部からの情報収集や確認を行った。また、毎月開催している管理職会議でも本部からの経営状況の報告を受け、法人全体と事業所の状況把握に努めた。研修参加等により社会福祉事業全体の動向の把握も行っている。

<p>II-2 人材の確保・養成</p>	<p>評価：B 法人として、人材確保のため様々な活動に取り組んでいる。新任職員、中堅職員、主任等、各レベルに合わせた研修会も開催され、対象職員が受講した。研修会に参加することで法人から求められる役割について認識する機会となった。</p>
<p>II-3 地域との交流と連携</p>	<p>評価：B 感染防止の観点から、地域ふれあい祭りや福祉運動会など地域交流としてのイベントの開催はなかったが、地域行事への参加を行った。</p>
<p>III-1 利用者本位の福祉サービス</p>	<p>評価：B 全職員が人権擁護、虐待防止に関するセルフチェックを行い、その結果を基に日々の実践の振り返りを行った。利用者の意思決定を事業計画にも掲げ、選択肢の提示、思いを聞き出す、表情から読み取ることを実践し、利用者自身の意思決定に取り組んだ。 事業所内でも虐待防止部員が中心に、気になった場面についての論議や、資料等による情報共有を行った。</p>
<p>III-2 サービスの質の確保</p>	<p>評価：B 毎日、支援記録システムへ利用者の様子を記録し、生活事業所や保護者への引継ぎに活用した。また、より良い実践に向け毎月ケース会議を開催し検討を行った。その他、実践検討部会とも連携しながら実践の検討を行った。</p>
<p>III-3 サービスの開始・継続</p>	<p>評価：B サービス利用開始時には契約書、重要事項説明書等の資料を提示し、分かりやすく丁寧な説明を行った。必要時、相談支援事業所とも連携して本人の意向に沿ったサービス提供となっているか振り返りを行い、今年度は1名の方が就労継続支援B型へ移行された。</p>
<p>IV-1 利用者に応じた個別支援プログラム</p>	<p>評価：B 利用者・家族の要望を確認したうえで、個別支援計画を策定し、定期のモニタリングにて振り返りや見直しを行った。モニタリング後にはケア会議を行い、利用者の自己決定や主体性を大切するという視点をもちながら本人の思いを形にできるような具体的な目標設定を行った。</p>
<p>IV-2 日常生活支援サービス</p>	<p>評価：A 看護師と連携して健康管理を行った。また、生活事業所とも連携し、体調不良等の共有を行った。日々は作業を軸とした活動ではあるが、利用者の希望を取り入れた余暇活動にも取り組み、日中活動の充実に取り組んだ。</p>

V-1 生活環境の整備	日中活動事業のため非該当。
VI-1 緊急時の対応	評価：A 法人で災害時BCP、感染症対応BCPが策定され、有事の際は各BCPに沿って行動できるよう整備された。 火災、地震想定避難訓練の実施、救急蘇生法講習会の開催等、緊急時にも迅速に対応できるよう訓練を行った。
VII-1 就労意欲の醸成	非該当。

* 着眼点の項目等を参考に、具体的な実施（達成）の状況や、未実施の場合はその理由など評価における根拠とともに、今後の改善計画（方針）なども記載してください。

* VII-1 「就労意欲の醸成」欄は、授産施設のみが該当します。